

令和４年度 奈良市母子保健推進会議の意見の概要	
開催日時	令和４年９月８日（木）午後２時３０分から午後４時３０分まで
開催場所	奈良市保健所・教育総合センター８階コミュニケーションプラザ
意見等を求める 内容等	・ 令和３年度母子保健事業の実績報告 ・ 母子保健事業における課題
参 加 者	出席者７人 ・ 事務局９人
開催形態	公開（傍聴人なし）
担 当 課	奈良市健康医療部母子保健課
意見等の内容の取り纏め	
事務局による概要説明の後、出席者に意見等を求めた。	
《意見を求めた内容及びそれらに対する意見等》 １ 令和３年度母子保健事業の実績報告 ▶ 基盤課題Ａ「切れ目のない妊産婦・乳幼児への保健対策」 コロナ禍で母親は不安の中での子育てとなっている。育児の悩みを共有・共感できる機会を持ってもらうことで、安心して子育てを行える環境を作り、親を孤立させないことが大切。 幼児健診が個別化となり、集団健診、個別健診それぞれの特徴が見えてきた。子どもの身体的な異常だけでなく、発達面や保護者の育児不安などについて、関係機関で連携し必要な家庭に必要な支援を行えるような仕組みづくりが求められている。 ▶ 基盤課題Ｂ「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」 学童期・思春期からの性教育は、望まない妊娠を減らすための０次予防につながる。妊娠してからではなく、妊娠前から出産育児のイメージが持てるような対策を考えていくことが望ましい。 ▶ 基盤課題Ｃ「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」 子育て広場ではコロナ禍の影響を受けながらも、親子を孤立させないように感染対策の工夫をして運営している。育児休暇中などの短い期間でも子育て広場を利用することで、子育ての仲間づくりや地域でのつながりを持てるなどのメリットは大きい。 また、妊娠期からの利用が産後の孤立を防ぐことに繋がっていると感じている。関係機関で協力して子育て広場の周知を行い、利用者を増やすことで、親子の孤立を防ぐことにつなげていきたい。 ▶ 重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」 発達支援を必要とする親子に対しては、コロナ前の生活と大きく変えないように支援者側が工夫する努力が求められている。家族支援の視点を持ち、保護者の思いを否定せずに受け止めることや、その子の強みに着目できるような支援が大切だと感じている。 ▶ 重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」 令和４年４月に子どもセンターが開設した。子ども家庭総合支援拠点と児童相談所、一時保護所の機能を一元化し、支援の切れ目をなくしていきたいと考えている。虐待対策は、１機関のみでは難しいため、子どもに関わる機関で連携して、縦横的な支援や見守りを続けていきたい。	
配付資料 ① 令和３年度ライフステージ別母子保健事業一覧 ② 奈良市母子保健事業実施体制	